2　と畜場でみられた牛の悪性水腫

○吉川（ヨシカワ）　雅己（マサミ）（豊橋市食肉衛生検査所）
松田　克也（　　〃　　）
陣内　俊　（　　〃　　）
松本　圭　（　　〃　　）
瀬尾　幸嗣（　　〃　　）
齋藤富士雄（　　〃　　）

1．はじめに　クロストリジウム属菌による筋肉にガス壊疽を起こす気腫疽、悪性水腫は、一般に甚急性の経過をとるので死亡畜の病理解剖で発見されることが多く、生体を処理すると畜場で遭遇する機会は希である。今回当検査所において悪性水腫の牛に遭遇したので、その概要を報告する。

2．材料および方法　症例牛：ホルスタイン種、雌、23 ヶ月齢。と畜日の 4 日前に分娩し、その翌日から食欲不振、元気消失、起立困難等の症状を呈したため廃用となった。搬入時の生体検査では左腰部の裂傷、跛行を認めた。

3．結　　果　（1）肉眼所見：左大腿部筋肉内に病変部を認め、酸味がかった悪臭を発していた。筋肉病変は表皮に近い側から外層、中間層、深層に分かれていた。外層は赤褐色で筋肉の構造を保っており、刀割により浸出液の漏出を認めた。中間層は桃色から灰白色で壊死部が占めており、無数の気泡を認めた。深層は暗赤色で融解壊死していた。

（2）病理組織検査：外層では筋線維間に大小の間隙と、一部の筋線維内に空胞を認めた。中間層では筋線維は壊死しており、筋線維間に大小多数の間隙と、筋線維内に空胞を認めた。外層と中間層の境界部ではリンパ球主体の炎症細胞が浸潤し、筋線維間に芽胞を形成するグラム陽性大型桿菌の集簇を認めた。

（3）微生物検査：病変部の直接スタンプ鏡検により亜端在性の芽胞を形成するグラム陽性大型桿菌を確認した。嫌気培養の結果、病変部及び左乳房上リンパ節から *Clostridium septicum* を分離した。

4．考　　察　本疾病の病変部は一部に限局していることが多く、起立困難、横臥などによる褥創との鑑別には、枝肉検査だけでなく、稟告、生体検査等を踏まえた総合的な判断が必要と考えた。本疾病と気腫疽は臨床症状、病理所見等が類似しており鑑別には細菌学的検査の比重が大きい。しかし、複数のクロストリジウム属菌が混合感染している場合、嫌気要求度が異なる種が混在していることも考えられ、全ての菌を分離することが困難である。今後は、PCR 法の導入も検討し、より正確な鑑別診断を実施していく必要があると考えた。